

総合的な学習の時間

1 地域や学校、子どもの実態等に応じた特色ある指導計画の作成

- 全体計画及び年間指導計画は、カリキュラムマネジメントの視点から、各学校における教科横断的な目標、育みたい資質や能力、学習内容、学習活動や評価等を明確にして地域や子どもの実態に即して作成するとともに、自己点検・自己評価を行い改善を図る。
- ふるさとにかかわる単元を開発したり、外部の教育資源を積極的に取り入れたりしながら、多様で豊かな体験活動を各学校の実態に応じて指導計画に位置付ける。

2 創意工夫を生かした探究的な学習活動の展開

- 探究的な学習が発展的に繰り返し展開できるように、「課題の設定」を重視する。その際、子どもの発想を大切にするとともに、学習対象とのかかわり方や出合わせ方を工夫するなど、教師の働きかけを工夫する。
- ◎ **問題の解決や探究的な学習の過程においては、協同的に学ぶことの3つの価値を踏まえて、他者と協同して課題を解決する学習活動を設定する。**
＜協同的に学ぶことの3つの価値＞
 - ① 多様な情報の収集につながる。
 - ② 異なる視点から検討できる。
 - ③ 個人の学習の質を高め、同時に集団の質も高める。

3 子どもの主体的な学習を支える評価の工夫

- ◎ **子どもが自己の高まりや成長を実感したり、今まで気付かなかった自分のよさや問題点に気付いたりできる自己評価や相互評価等の方法を工夫する。**

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

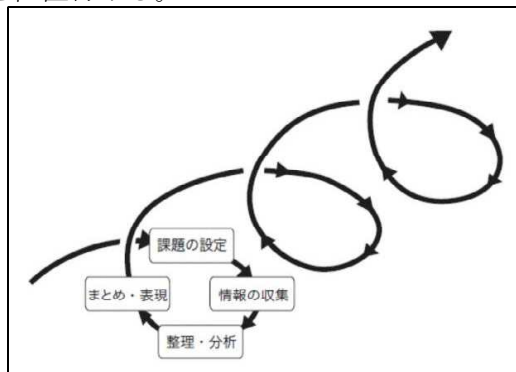
思考の共有と吟味を促す学び合いの充実

- ◎ **問題の解決や探究的な学習の過程においては、協同的に学ぶことの3つの価値を踏まえて、他者と協同して課題を解決する学習活動を設定する。**

- ・ 探究的な学習のプロセスとして学び合いの活動を位置付ける。

- 例 ① 情報収集、情報の整理・分析により自己の考えをもたせる。
- ② 学習形態を工夫して、学び合いの機会を設定する。ここでは、情報の対比を通して結論の内容を深められるようにする。
- ③ 根拠を明確にして説得力のある説明ができるようにする。
- ④ 新たな課題を設定し、次の探究につなげる。

教師は、「整理・分析」「まとめ・表現」を重視し、次の「課題の設定」に発展させる。



※ 学習指導要領解説 総合的な学習の時間編【小・中学校】P12～17（平成20年 文部科学省）

同 【小学校】P83～93（平成20年 文部科学省）

同 【中学校】P81～91（平成28年 文部科学省）

※ 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開【小学校編・中学校編】P17～47

（平成22年 文部科学省）

「振り返り活動」の充実

- ◎ **子どもが自己の高まりや成長を実感したり、今まで気付かなかった自分のよさや問題点に気付いたりできる自己評価や相互評価等の方法を工夫する。**

- ・ 「まとめ・表現」の段階において、伝えたり、考えをまとめたりする場を設定する。

- 例 振り返りカード、地域住民への報告、プレゼンテーション、パンフレットなどによる表現する場を設け、学習前と学習後の変化を振り返らせる。その際、知識、技能、経験、思考など、表現する内容の観点を示して、多様な面から自己の変容を自覚できるようにする。